

2015年3月12日
株式会社日立製作所

日立の英国都市間高速鉄道計画向け車両が英国のサウサンプトン港に到着

株式会社日立製作所(執行役社長兼 COO: 東原 敏昭/以下、日立)が2015年1月に笠戸事業所(山口県下松市)より出荷した、英国運輸省(DfT: Department for Transport)の都市間高速鉄道計画(IEP: Intercity Express Programme)向け先行生産車5両(1編成)のClass800が、英国のサウサンプトン港に到着しました。

その到着を祝し、本日、英国のクリア・ペリー運輸政務次官をはじめ、日立レールヨーロッパ社、株式会社日立物流(執行役社長: 中谷 康夫/以下、日立物流)および海運会社である Wallenius Wilhelmsen 社(ワレニウス・ウィルヘルムセン)などの関係者による到着セレモニーが同港にて開催されました。

到着した車両は、本年4月より乗務員の訓練を兼ねた走行試験が開始され、走行試験は、オールド・ダービーにある試験場の専用軌道および East Coast Main Line(ECML)の一部区域を利用して行われる予定です。

IEPは総事業費57億ポンド(約1兆円)規模のプロジェクトで、英国のECMLとGreat Western Main Line(GWML)で現在使用されている車両「インターシティ125」と「インターシティ225」を日立のClass800シリーズに置き換えるプロジェクトです。日立は、866両(122編成)の車両の製造と27年半にわたる保守を行いません。Class800シリーズの運行開始は、GWMLが2017年、ECMLは2018年から開始される予定です。

Class800シリーズは、76両(12編成)を笠戸事業所で製造し、残りの790両(110編成)は、現在、日立が英国ダーラム州ニュートン・エイクリフにおいて建設中の鉄道車両工場で製造する予定です。2020年までにすべての車両を納入する計画です。約8,200万ポンドの費用で建設される同車両工場は、本年の夏ごろに竣工し、2016年にはClass800シリーズの量産を開始します。またIEP向け以外にも、今後、英国や欧州で獲得する案件向けの車両を製造する予定です。

既に、同車両工場に勤務する従業員の採用活動を開始しており、実習生を含め56人が雇用されています。2015年末までに200名、さらに2016年には400名に達する予定で、最終的に研究開発要員も含め約730名となる見込みです。

今回、笠戸事業所ではニュートン・エイクリフの従業員を受け入れ、車両の製造方法などについて約3,000時間の研修を実施しました。研修を終えた従業員は、技術やノウハウを英国に持ち帰り、ニュートン・エイクリフの従業員に伝達することで、日立全体としての車両製造に関するスキル向上を図ります。

日立は、高速鉄道以外にも、鉄道運行会社の Abellio 社(本社:オランダ)から標準型近郊車両「AT-200」234両(70編成)の納入ならびに10年間の保守契約を本日獲得しています。今後も、世界各国の鉄道計画について積極的な受注活動を継続し、鉄道システムのグローバル展開を加速していきます。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
